

木祖村議会だより



道

特集

①新春特別インタビュー
「TEAM911」

②議会むらづくりサロン



シリーズ

明日の木祖村のために

「村会議員」になろう!!

最終回

目指せ、オリンピック! やがはらジュニアスキークラブ練習中。

平成31年1月31日

No 163

平成31年 議員の道しるべ

あけましておめでとうございます。新しい年のはじまり、議員それぞれの道しるべ（考え、決意、目標）をここに立てます。それぞれの立場で、また議員一丸となり、本年も木祖村発展に向けて議会活動に取り組んで参りますので、よろしくお願い申し上げます。

田上康男 議長



平成30年は記録的な猛暑と集中豪雨・台風など、大きな災害が多発した年でありました。そして、平成31年は「木祖村生誕130周年」の節目の年であり、4月には村議会議員の改選が行われます。

私は、議員の任期は3期を目前に後進へ譲ることが望ましいと考えますが、多選・マンネリによる組織の停滞・議会への不信感などを防止するためにも、議員の引き際は清くあるべきと思います。

よって、4月の改選では村政に意欲・関心のある方、見識・リーダーシップのある方、行政と対等に議論できる方、ヤングママさんなど、多数の方々が生徒補して議会の更なる発展にお力添えを賜りたく、お願い申し上げます。

唐澤重明 議員



世の中「平成最後の」という言葉が溢れています。今から新しい時代の始まりを意識して仕事をしたいと思えます。新しい時代には、期待も不安もありますが、良い時代になるようにみんなががんばりましょう。

田上芳朗 議員



「日々精進」。議員として、日々勉強し、小さなことから始めていきます。

「地方創生」。木曾郡唯一消滅しない都市「木祖村」に希望を持ち、可能性を模索していきたい。

栗屋正一 議員



平成から元号が変わる新年、国も村も多くの課題がありますが、「道しるべ」の取材で出会った多くの若者のがんばる姿を大変心強く感じました。村の皆さんと共に元氣な木祖村づくりに努力して参ります。

丸山徹三 議員



時代が変わっても、日々生活は変わらず続いていきます。行政と村民の皆様、議会が共働の精神を持って、村づくりをして、村民の皆様が安心して住んでいられるよう、初心を忘れず、コツコツ議会活動をしてまいります。

青木 功 議員



人口が減少し、尚かつ高齢化が進んでも、輝き、笑顔溢れる木祖村であるためには地域の活性が一番と考えます。今年も地域活性を目標にがんばって行きます。

武居孝男 議員



ユネスコジオパークの理解を強め、水木沢天然林の保全や中山道の歴史を辿る意義を木曾郡全体で検討すべき時期であり、智慧と足を使った活動を促進することを熟望いたします。

深澤衿子 議員



昨年に引き続き、今年も健康第一の村づくりを提案し、笑顔あふれる村となるよう共生・共働でやっていきます。源流の里の魅力アップ促進となるよう発信していきたいと思えます。今年もよろしくお願い致します。

古畑節行 議員



人口の減少は避けて通れません。4人に1人が75歳以上という現実を直視し、高齢者がいつまでも元気に暮らせる村。若い人が定着できる仕事づくりに取り組んで参ります。

岩原大輔 議員



「掘り出そう、村のチカラ」。4年前の選挙で掲げたスローガンであり、私の活動の根本となる言葉です。木祖村にはたくさんの方のチカラがあります。まだ光があたっていないチカラもたくさんあります。村にあるチカラを輝かせる活動をします。

寒い冬でも、やぶはら高原スキー場は熱い！

スキー場を支える プロ集団 TEAM911

What is TEAM911?

皆さんは“やぶはらマジック”という言葉をご存知ですか。「最高に気持ちよく滑れた!」「上手くなったような気がする!」「また来たい!」…やぶはら高原スキー場を訪れたスキーヤーがまるで魔法にかかったかのように誰となく口にしてしまう言葉。そんな“やぶはらマジック”の演出者がTEAM911（チーム911）と呼ばれる、スノーメイク&ゲレンデメイクのプロフェッショナル集団です。

メンバーは現在11人。彼らの仕事はスノーマシンで雪を造り、そしてお客様が喜ぶ極上のゲレンデを造ること。「TEAM911」の名前は、機動性と造雪能力で最強といわれる檜山工業社製のスノーマシンKB-911からとったものです。クリスマスや正月気分さえ味わう時間のない現場。熱い想いでスキー場を陰で支えるTEAM911の皆さんにインタビューをしてきました。



インタビューの様子

仕事の向こうにお客様の笑顔があるから！

取材に伺ったのは12月30日午後4時前。

陽が山に落ち、辺りが薄暗くなってきた夕刻からが彼らの出番。その日の気温や湿度、風向きなどを読み、作業工程を練る会議から仕事が始まります。50台を超えるスノーマシンと3台の圧雪車を操作し、ゲレンデづくりが行われます。気象条件やスキー場の営業方針に合わせ、稼働台数、配置場所、運転時間、放出する水量などを決めて作業に取りかかります。先輩の背中をみて学び、長年の経験と技術がものを言う世界。



TEAM911代表 奥谷 渚さん

TEAM911代表の奥谷渚さん。木祖村で生まれ育ち、夏は白菜農家として生活をしています。「お客様は、自分の時間とお金をかけて、やぶはら高原スキー場に来てくれる。そのお客様達に喜んでもらえる。そしてまた来てもらえる。こんな嬉しいことはありません。」この仕事のやりがいをそう話す奥谷さん。家族の協力なくしてできない仕事にメンバーの西野さんは「自分が造ったゲレンデに家族を連れて来れることはとても嬉しい。」と話されました。

しかし、良い仕事をするにも良いものを造るにも、技術だけでなくお金がかかるもの。多くのスキー場が

経費節減とゲレンデのクオリティを天秤にかけざるを得ない中、スキー場を経営する奥木曾グリーンリゾート(株)は、スキー場のメイン商品であるゲレンデづくりをTEAM911に一任しています。「仕事を任せてもらい本当にありがたい。その

信頼と90年の歴史を感じながら仕事に向き合っている。」皆さんはインタビューの中で、信頼で成り立つ仕事への感謝と責任の重さを何度も口にしていました。



TEAM911 西野慶太さん



雪の山をゲレンデにする圧雪車

やぶはらマジックを演出するプロの仕事

深夜。極寒の屋外作業。しかも今年は暖冬という気象条件に翻弄される日々。スノーマシンと水と電気さえあれば誰でもゲレンデが造れる訳ではないといいます。1クルー4名体制で行われる現場は想像以上に厳しいものであることが分かりました。

風速や風向きを読んでマシンをセットし、気温や湿度で放出する水量を調整する。その気象条件が変化すればすぐに対応しなければなりません。

そして次には造られた雪の山を圧雪車でゲレンデにする作業が始まります。そこにも戦略会議で研究された作業手順とオペレーターの技術の裏付けがありました。シーズンインすれば、毎夜圧雪車によるゲレンデ整備が行われますが、ゲレンデの傾斜やコース幅なども積雪量や造雪量によって計算されたものであり、た

だ単に雪面の凸凹を整地してるだけではなかったのです。奥木曾グリーンリゾート(株)の古井さんも、「TEAM911の整備技術、しかもそれが村内の人材であることがやぶはら高原スキー場の強み」と話されました。雪造りから始まり、経験と技術に裏付けされた毎夜の圧雪車によるゲレンデ整備の成果、それが“やぶはらマジック”と言われる所以なのでしょう。



奥木曾グリーンリゾート(株)
技術部長 古井正貴さん

やぶはら高原スキー場の スゴイ話!



皆さんはスキー王国・長野県にあって『やぶはら高原スキー場』は5本の指に入る90年の歴史を有することをご存知でしょうか。昭和のはじめ頃、豪雪地帯でもないこの地に、スキー場を造った先人達の発想と行動力に今更ながら驚かされます。

やぶはら高原スキー場が誇れるのは、長い歴史だけではなく、スノーマシンの導入やスノーボードの受け入れなど、時代のニーズに即した先進的な取り組みをしたスキー場の姿勢にあります。スキー産業全体が大きく衰退する中、リフト会社を新会社に経営統合し独立採算でスキー場経営をしてきました。各地の公設民営スタイルのスキー場が経営難から地元自治体から多額の公的資金を受けて経営する中で、やぶはら高原スキー場は独立採算で経営を続けてきました。それは、苦戦を続ける小規模なスキー場の中では異彩を放つ存在であったと言っても過言ではありません。

このスキー場は「木祖村みんなのもの」

仕事の上での課題を聞くと、スノーマシン施設の老朽化について話をしてくれました。

降雪作業に必要な制御装置の故障や給水配管のトラブルがすでに発生しており、作業効率を低下させているとのこと。トラブルを解消すれば、作業効率がアップしランニングコストを下げることができますが、それには大きな投資が見込まれます。数億円とも見込まれる改修費用の捻出だけでなく、スキー場の存続やコースの縮小などにも直結する大きな課題です。奥谷さんは、「今10年、20年先のことをしっかり話さなければ手遅れになる。絶対にやぶはら高原スキー場を続けたい。やぶはら高原スキー場は木祖村みんなのものだから、どうすることがこのスキー場にとって、木祖村にとっていいことなのかをみんなで考えるべき。」と話してくれました。

少しでも早い段階でスキー場の課題を具体的に検討する場。その必要性をインタビューを通して強く感じました。



スノーマシン (降雪車)

取材を終えて事務所を出ると外の気温は氷点下8度。暗闇の中に稼働するスノーマシンの照明が浮かびあがっていました。TEAM911の皆さんは今夜もお客様の笑顔のために作業を続けていることでしょうか。村民の皆さん。今シーズンは地元のやぶはら高原スキー場に出かけてみませんか。“やぶはらマジック”で美しく、そして滑りやすく仕上がった極上のゲレンデはきっと私たちに笑顔にしてくれるはずですよ。

議会むらづくりサロン開催

4月の議員選を見据え、報酬・定数をテーマに意見交換

11月27・28・29日の3日間、村内3会場で議会むらづくりサロンを開催しました。3日間合計で45名（小木曾6名、藪原14名、菅25名）に参加していたが、各会場活発な意見交換が行われました。

今回のむらづくりサロンでは、第1部として9月会議の報告を含め、生活の中で感じる身近な疑問や村政に対する意見・要望等について話す「フリートーク」を、第2部では『来年4月に迫った議員選挙！どう考える議員の報酬と定員』というお題を決め「テーマトーク」を行いました。それぞれ意見をいただきました。

※紙面の都合によりすべての意見を掲載できませんのでご了承ください。



小木曾会場

第1部 フリートーク
 …9月会議の議会報告
 身近な困りごと、村への提案など

● 新たに建設予定の福祉施設は、図書館の設備が組み込まれたら子育て世代も含め若い人が集まる場所となるのではと考える。福祉、健康づくり以外にも人が集まり楽しめる施設としてインバウンドを含め観光客対応もできないか。

● 近年外国人旅行者が増えている。鳥居峠越えの旅行者が腰をかけて休むところや東屋を設けるなど村にお金が落ちる仕組みやリピーターを増やすことが必要である。景観の悪い場所もあるが全てがお客様のためになることであり、取組みをしなければならぬ。

● 源流の里木祖村らしい水汲み場が欲しい。まず水質検査が必要である。観光となる水汲み、水飲み場があれば良いと思う。

● 子ども達の体力低下が顕著である。具体的な要望として中学校に陸上部を創ってもらいたい。王滝村では部活を社会体育として行っている。指導者は社会教育指導員として時給で活動している。教員の負担減にもつながるのではないか。木祖村には良い指導者がいるのでぜひ取り組んでもらいたい。



藪原会場

● 個人の立ち木伐採について色分けをはっきりしてほしい。個人のものとは制度が使えるものとの棲み分けを教えてください。

● 人口減少により自治会役員の構成が困難になってきている。また、公民館等を使用する区は負担が少ないが集会所のある区は負担が多いなど各区によって区費の違いがある。

● 村の中だけでも同じような内容で、同じようなメニューで行う会議が多い。負担を感じている住民が多いはず。目的が違つたため統一は難しいと思うが、開催方法など検討してもらいたい。

第2部 テーマトーク

お題 「来年4月に迫った議員選挙！
どう考える議員の報酬と定員」

議員定数

住民：議員の選出区域が偏っている。荻原、小木曾、菅の地区ごとに選出できないか。もつという
ような業種の人に出てもらった方がいい。

議会：木祖村では一選挙区としてやっているの
で、地区割はできない。様々な業界から議員が
出ることは望ましいことであり、議会としても
会合などの折にお願いをしている。

住民：現状の10人でいくべき。現在、木祖村は行政、
議会、村民とうまくいっていると思う。木曾
郡のリーダー的な存在である。

住民：定数はなぜ10名なのか。思い切って20名位に
増やせば幅広い意見がでるのではないか。

議会：議員定数は村の条例で決められており木祖村
は10名である。

注)平成23年に地方自治法の改正があり、自治体の
人口による議員定数の上限は撤廃され20名にする
ことも不可能なことではありません。

議員報酬

住民：木祖村の議員報酬は他町村と比較するとどの
くらい差があるのか。また、規定はあるのか。

議会：木曾郡内では15万円前後で推移している。町
村議員の報酬は全国平均で21・3万円であり、
比較すると5万円程の差がある。金額は条例
で定められているがその金額の根拠はない。

住民：議員は名誉職ではない。仕事した分の報酬を
もらう事は当然。若い人がやらないのは報酬
だと思つ。家族を養つためには最低25万は必
要。感覚的に報酬は上げるべきだと思つ。

住民：若い人でも議員に出られるような環境をつく
らなければいけない。若い人が出れば議会の
距離も縮まると思つ。

議会：若い世代が生活する上で現状の報酬では立候
補することは容易ではない。様々な世代が議
員をやるにはそれ相当の報酬が必要と考える。

住民：若い人だから良いというわけではない。年配
の人でも意欲のある人はたくさんいる。

議会：幅広い世代や地域から議員が出ることが理想
である。議員報酬だけで解決する問題ではな
いが、誰でも立候補できる環境が必要である。
住民：若い人が立候補して当選した場合は手厚く補
償するなど検討してもいいと思つ。

住民：議会だよりで「議員になろう」と特集を
作ったり、今回のような場で取り上げたのは
議会として危機感があるからなのか。

議会：木祖村は、前回の議員選挙が選挙戦となり、
補欠選挙での補充もできているが、他町村の
ようにいつ定数割れとなるかわからない。来

年から報酬を上げるといつ話ではないが、検
討する時期にきていると考える。

住民：通年議会が正式に始まると村民との距離が縮
まる。村民に情報を提供する場が増えれば報
酬も引き上げるのは当然。時間の掛かる話で
あるが、どこでも議員のなり手不足が問題に
なってきたおり見直しを検討する時期に來て
いるのではないか。

住民：議員活動はボランティアではない。議員報酬
はしっかり仕事をするためのものであり、い
まの報酬では無理がある。議員がしっかり働
くためにも報酬は上げるべきだ。



村営住宅建設進む 藪原三角土場に单身者用村営住宅が完成

本祖村議会平成30年12月会議は、12月13日(木)に再開され、条例改正2件、指定管理者の指定1件、補正予算3件の6議案について慎重審議され、全案件を原案どおり可決し、12月20日(木)に休会しました。

条例改正

○村営住宅条例の一部改正

【概要】

藪原地区三角土場に建設された村営住宅(单身者用集合住宅)を「一里塚集合住宅」として村営住宅に追加するもの。平成31年度にも同様の村営住宅が併設される予定。



議会現地踏査
单身者用村営住宅



○こだまの森設置および管理等に関する

条例の一部改正

【概要】

こだまの森のテニスコート1面を改修し、平成31年シーズンより人工芝のフットボールコートとして使用するため、コート利用料や利用時間などの規定を条例で定めるもの。

■こだまの森フットボールコート使用料 料金は1時間あたり

区分		ソサイチコート (全面)	フットサルコート (1面)
平日	9:00~17:00	2,800円	1,800円
	17:00~22:00	3,300円	2,100円
土日祝日	9:00~17:00	3,500円	2,500円
	17:00~22:00	4,000円	2,800円
トップシーズン (GWおよびお盆)	9:00~17:00	5,800円	4,800円
	17:00~22:00	6,800円	5,300円

- ・ 半日、1日、全日使用する場合は、使用料を最大で30%減免することができる。
- ・ 合宿等で村内の宿泊施設を利用した場合は、使用料を最大で50%減免することができる。

議会一コマモ ソサイチとは、南米発祥の7人制サッカー。コートサイズは、フットサルコート約3面分で今回こだまの森ではソサイチコート1面が整備されました。こだまの森ソサイチコートは公共施設としては日本で初めてのものとなります。

【委員会公審議】

問 コート使用料

区分にトップシーズンとあるが具体的にどの期間を指すのか。

答 トップシーズンは、ゴールデンウィークとお盆期間とし、繁忙期のため料金を割高に設定している。曖昧な表現は今後調整する。

問 使用料の減免が最大30%と設定されているが具体的な基準は。

答 条例では減免の上限を設定している。運用は指定管理者と協議した上で詳細を詰めていく。

問 午後10時まで使用時間が設定されているがこだまの森のイメージや天体観測などの共存はできるのか。

答 ナイター照明の上に光が拡散しないよう笠状のカバーをつけるなど検討している。

意見 リピーターも多いため、こだまの森のキャンパーなどのイメージダウンにならないように慎重に進めていただきたい。



こだまの森フットボールコート

とちのみ保育園・木祖小中学校に空調設備設置へ

産婦健診・産後ケアで プレママサポート事業を強化

補正予算（一般会計・特別会計）

【主な補正内容】

- ・木祖小中学校空調設備工事委託料 417万円
- ・村営住宅建設工事設計委託料 200万円
- ・産婦健診および産後ケア事業委託料 34万円

【委員（公審議）】

問 今年度完成した単身者用村営住宅と新設予定の村営住宅は同等のものであるのになぜ高額な設計費用が発生するのか。

答 同様の建物ではあるが、随契として類似軽減率などにより、半額以下の金額としている。

意見 発注方法や交渉で減額できるものであれば対応をお願いしたい。

問 有害鳥獣対策事業費の減額理由は。

答 カモシカの捕獲頭数が、当初計画より7頭分減少したため。

問 木祖小中学校空調設備工事設計委託料について、設計費が一般財源となっているが国補助制度ではないのか。

答 設計費も補助対象である。交付額に影響がないため設計費を一般財源で計上している。

問 夏場は小中学校よりとちのみ保育園の方が稼働率が高いため、導入を進めるべきでは。

答 保育園は来年度の当初予算で設計・工事費をま

とめて計上し、導入する予定である。

問 産婦健診、産後ケア事業が新たにスタートするが利用料の助成など村独自の制度を導入できないか。

答 子育て支援の一環として新年度の予算編成で検討したい。

問 塩沢伏流水化工事の増額補正の理由は。

答 当初予算で考えていないコンクリート構造物の除去工事が発生したため。

問 塩沢伏流水化工事の進捗状況および供給開始の時期は。

答 平成31年度内に完了し、新年度より供給開始できる予定である。



陳情・請願・意見書提出

○安全・安心の医療・介護の実現と夜勤交代制労働の改善を求める意見書

○平成30年度木祖村連合自治会 陳情書

新規要望67箇所 継続要望117箇所 (自治会要望)

○新防衛大綱閣議決定撤回を求める意見書

議会二〇×七

12月18日、政府は新防衛大綱を閣議決定しました。計画内容は、海上自衛隊の護衛艦「いずも・かが」の攻撃型空母化や最新鋭のステルス戦闘機の調達など多くの国民または周辺諸国を不安にするものであり、木祖村議会では12月会議最終日（12月20日）に急遽議案を追加し、新防衛大綱閣議決定撤回を求める意見書を審議、全会一致で可決しました。

道の駅指定管理者に株源建設予定の加工施設と一体的運営へ

指定管理者の指定

【施設名】

木祖村農林水産物直売所・食材提供供給施設
(道の駅 木曾川源流の里きそむら)

【指定管理者および代表者】

株式会社 源 代表取締役 永原 二郎

【指定期間】(5年間)

2019年4月1日～2024年3月31日

一般質問

村政を問う

5 議員 7 件

田上 芳朗議員

- 1 伝統文化の継承と学習環境の変化について
- 2 将来を見据えた村づくりについて
- 3 人事評価について

深澤 衿子議員

- 1 村独自の景観を考えると

丸山 徹三議員

- 1 環境整備ボランティアポイント事業について

栗屋 正一議員

- 1 太陽光発電事業の対策について

岩原 大輔議員

- 1 木祖村の情報発信施策を問う



田上芳朗 議員

伝統文化継承団体への支援はしているか

答 活用できる補助金で支援している

問 当村には祭り、民謡など伝統文化の継承に力を入れている団体があるが、補助、支援はしているか。

教育次長 県無形文化財のお六櫛技法伝承に補助金が出ている。その他は地域づくり活性化補助金を活用している団体が多い。

問 農産物生産加工団体への補助はあるか。

農林課長 農業関係5団体への補助金は出している。特産品加工団体へは、講演会、講習会の経費の一部を負担するなど支援している。

意見 運営が健全な団体へは多少なりとも支援をしてほしい。

問 木祖村全体の地域文化の伝承のために、中学校の総合の時間に高齢者の協力を取り入れ、地域全体で子どもを育てるコミュニティスクールのものにつなげることはできないか。

教育長 「おおりの時間」において学校側から要請があればコミュニティスクールの組織を使って住民講師の要請はしている。地域ぐるみでの子育ては大切。検討する。

問 小学校への英語が教科化され、いずれ普通科目同様に成績がつけられるこれに対応してALTの増員は考えているか。保育園への派遣は。またパソコンは足りているか。

教育長 ALTの増員はしない。パソコンは40台あり、一学級分は足りている。

住民福祉課長 幼少期より異文化を体験させることは重要である。

問 将来を見据えた村づくりとして、ここに住む、ここを訪れる必然性のある地元ならではの文化圏創成の考えはあるか。

村長 私の公約に付随する。景観や山道の整備等支援はしている。引き続き村民とともにやっていく。

問 職員の人事評価は適正に機能しているか。広域連合職員の評価の担当は。

村長 職員は制度に従いやっている。広域は最終評価は連合長であるが、どちらも問題があれば、適正に指導していく。



深澤 衿子 議員

村独自の景観を考えると

答 それぞれの地域に合った景観を考えていく

問 昨年の看板等の規制により村内の動きは。

商工観光課長 10月施行後、行政懇談会において説明した後、相談・問い合わせがあり、指導した経過はある。施行者、事業者へは今後も周知する。

問 村全体のイメージから村内統一された案内板などに替えていく方針は。

商工観光課長 村内は広域の公共サインを主としており、企業・事業者等と合わせることは困難。県の景観条例により、村内は規制はある。菅地区の様に各地区ごとに考えていくことも大事と考える。

問 村にとって基幹産業のスキー場入り口に「やうこそ やぶはら高原スキー場へ」の看板を、もちろんスキー場組合の考えもあるが設置することはできないか。

商工観光課長 スキー場も観光施設として公共サインを使いやっている。魅力アップ検討会においても考えていく。

問 以前青峰高校が作製したスキー場の看板をそろそろ新しい物に替えることは。

商工観光課長 高校インテリア科生徒が県補助金で作製し、奥木曽リゾートが出資して設置したもの。数原と入り口付近は撤去し、菅線に4基あるがまだ使える。老朽化した時は会社と検討する。

意見 。地域おこし協力隊の芸術的センスの村独自の看板にしていくことも提案したい。
。景観計画の中にある紙芝居看板に、村の28編もの民話があるので、新たな観光スポットとしていくことをすすめていかれるよう提案する。



丸山 徹三 議員

ボランティアポイント事業

答 ボランティアの重要性は高まっております、慎重に検討したい

問 東日本大震災以後、ボランティア活動の重要性が重視されてきた。ボランティア活動に対する考えをお聞きます。

村長 村に大規模な災害が発生した時、外部からのボランティアの力が必要である。木祖村社会福祉協議会がボランティア受け入れ窓口となっている。この村は様々なボランティア活動によって支えられていると感謝している。

問 健康寿命延伸を公約に掲げた村長の政策で村民の健康意識を高めるのが目的だ。健康ポイントに対する村民の関心や成果をお聞きます。

調整幹 実績については、30ポイントを獲得した方もいる。村民の声として「村はおもしろいことを始めたね」など笑顔と喜びの声が届いていて、健康づくりの励みになっていると感じている。

問 健康ポイント事業と同様な環境整備ボランティアポイント事業を始めたらいかがか。



住民福祉課長 環境整備ポイント事業は、村民にボランティア活動の参加を促し、モチベーションの向上という側面から導入による効果は期待できると思う。美しい源流の里木祖村を維持していくためには、ボランティアの重要性は益々高まって来ている。どうあるべきか慎重に検討していきたい。

意見 村の人口から環境ボランティアに従事する人は、それ程多くの人数ではないと考えられる。経費も多額にはならない。事業化に向けて是非前向きな検討をお願いする。



栗屋正一 議員

太陽光発電事業の 対策について

答 条例の抑制区域に「木曾川源流の里としてふさわしくない地域」を加えたい

問 「源流の里」木祖村に大規模ソーラーパネル設置が増えることは景観上よくない。

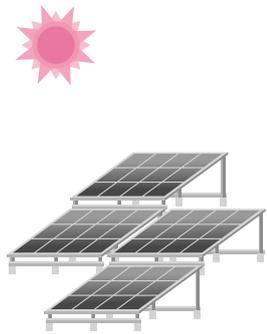
住民福祉課長 近年、開発が急速に進む再生可能エネルギー発電事業ですが、平成24年度に国が導入した電力の固定価格買取制度により、投資家も巻き込んだ形で猛烈な勢いで進められている。

村は無秩序な開発から地域を守る必要性を強く認識し、今年3月「木祖村自然環境等と再生可能エネルギー発電事業との調和に関する条例」を制定した。

条例制定以後、再生可能エネルギー発電事業の相談が4ヶ所あり、3ヶ所は抑制区域に該当していたので、事業を断念し、1件は条例に基づき住民説明会を開き理解を得て現在工事中。

問 条例の景観保全のため政策的抑制区域に指定されている区域は、県の郷土関係保全地域指定の鳥居峠と、「ぎさらぎの里」景観形成住民協定が結ばれている菅地区の2ヶ所であるが抑制区域を増やすべき。

住民説明会で地主の近隣の住民は反



対しにくい。

住民福祉課長 今後木祖村のあちこちで事業が開発されると、景観が一変してしまふ恐れがあるのではと、不安の声もあり条例に定める「審議会」を立ち上げ7人の方に委嘱し新たな抑制区域の必要性についてを諮問事項とした。設置後のトラブルにならぬよう新たに「発電事業計画区域が木曾川源流の里としてふさわしくない地域」を加えることを答申案として提案したい。

抽象的な地域とした背景には木曾川源流の里として上下流交流を始めとした村づくりを推進してきたことから、訪れる人、住んでいる人も「源流の里」のイメージを大切に考え、村内の何処であろうとも今後申請の計画について審査していくこととしたい。



岩原大輔 議員

答 伝わりやすい情報発信を心がけていく

問 情報が溢れる現代、膨大な情報を取り扱う行政として、住民への的確な情報発信をどう考えているか。

総務課長 住民アンケートの結果から主に隣組回覧や広報きそ、音声告知端末で住民は情報を取得している。担当職員それぞれが文字の大きさや言葉の表現などに伝わりやすい情報発信を心がけている。複数の媒体を組み合わせるなど発信方法も工夫している。

問 村外への情報発信はより戦略的な取組みが必要である。SNSによる情報発信はその活用・発信方法をどう考えるか。

総務課長 すべての職員が関わり「チーム木祖村役場」として様々な情報を村内外に発信できればいいが、まずは総務課で各課の情報を集約しSNSによる発信は強化していく。

問 ホームページや各種パンフレットに使用されている画像には古いものが目立つ。木祖村の観光地を象徴し、PR効果の高い写真撮影をプロカメラマ

目的を明確にし、 より丁寧かつ戦略的な情報発信を

に依頼し、情報発信強化につなげられないか。

総務課長 費用面や観光地の状況変化などもあるため検討課題としたい。総合パンフレットや村PR動画の作成にあたりプロが撮影した写真・画像は村でも使用できるため効率よく活用していきたい。

問 木祖村のホームページは非常に閲覧しづらく、抜本的な見直しが必要である。移住・定住施策を進める中では極めて重要な情報発信媒体と考えるが。

総務課長 現在のホームページは国の全額補助によるシステムであり、費用面からも使いやすいシステム変更は考えていない。ただし、ホームページの閲覧者数は年々増加しているため、情報の整理など見やすさは工夫をしていきたい。

明日の木祖村のために 「村会議員」になろう!!

シリーズ
その4

あなたもいつの日か村会議員に

このシリーズも最終回となりました。

いよいよ今年の4月には村会議員選挙があります。選挙終盤での決まり文句に「最後のお願い」というのがあります。選挙に当たって、選ぶ側にも選ばれる側にも、議会の役割りや議員の仕事を知っていただくことがとても大切だということがシリーズを始めた理由のひとつです。いつの日か議員を志してもらえないかという想いを込めて、このシリーズ“最後のお願い”です。

シリーズ最後は選挙までの具体的な手続きや流れについて、あくまでも参考例ですがお話ししたいと思います。

決意して立候補、選挙までの流れ

実際の立候補手続きや選挙運動は告示の日から始まり、選挙運動はこの期間に限られます。告示日の指定された時間内に選挙管理委員会（このあとは簡略化して「選管」と呼びます）の指定した書式で届け出をしないと立候補は受け付けられません。そのため、書類の不備などで立候補できなくなる事態を避けるために、選管では立候補予定者のために、必要な書類を用意するなどして説明会を開きます。そして告示前に書類に誤りが無いかの点検（事前審査）をしてくれます。説明会も事前審査も出席の義務はありませんが、立候補のための書類は必ずもらう必要があります。書類の不備があると選挙運動のスタートに遅れをとったり最悪の場合は立候補ができなくなるという事態もあるので、代理でも良いので説明会と事前審査には必ず出席しましょう。

ここまでが選挙の準備期間です。あくまでも準備の期間ということを忘れないでください。告示日前に、投票の依頼や投票を促すような行動を起こすと、禁止されている事前運動と見なされ処罰の対象となる場合があります。

立候補の届けが正式に受理された時、そこからが

村会議員選挙の始まりです。候補者となって、投票日前日までの選挙戦に臨むこととなります。

選挙運動はその気になれば一人でもできますが、告示日はお手伝いや応援してくれる人がいなければ大変なものです。村中の掲示板にポスターを張ったり、選挙はがきを書く作業も一人では大変な作業です。

選挙に必要なタスキや街頭演説などに必要な表示物のほとんどは選管で用意してくれたものを使います。自分で用意するものは選挙用ポスターと遊説用の拡声器・自動車（使わない人もいます）、それにお決まりの白い手袋でしょうか。お金をかけない選挙を目指すなら、ポスターを手作りしたり、村内を歩いたり自転車で移動しながら遊説することも良いと思います。

大事なことは、いかにして自分に投票してもらうかということで、自分をアピールし投票をお願いします。選挙運動には数々の決まりごとがあります。それを守らないと沢山の票を集めても当選が無効になるばかりか、法律による処罰を受けることもあります。決候補者はもちろん応援する人も注意が必要です。

まりごとについては、選管で用意してくれる手引きにすべて書いてあります。知らなかったでは済まされないこともあるので必ず読みましょう。そして、分からないことや不安なことがあればすぐに選管に問い合わせ確認することが大事です。

また、選挙にお金を使うには出納責任者（候補者本人も可）を置いて、選挙費用の報告をしたり（難しい書類ではありません）、選挙用のがきを書い

さあ選挙戦！戦い方はひとそれぞれ

告示の朝、選管への立候補届け出が済むと選挙戦の始まりです。

実際のところ、この段階で自分に投票してくれる人についてある程度の見通しができている人もいるかと思いますが、投票の依頼が正面切ってできるのはこの日からです。

ほとんどの候補者は、選挙事務所（自宅）前の第一声から選挙運動が始まりますが、これはいわゆる景気づけというものですから、あまり派手な行動は好きでないという方は、応援に駆けつけてくれた方にお礼のご挨拶をする程度が良いと思います。

選挙戦の基本は、遊説による投票依頼、電話による投票依頼、選挙はがきによる投票依頼などですが、やみくもに走り回るだけで票が獲得できるものではありません。まず、親類、友人知人など得票が見込めるところから積み上げていくことも作戦の一つでしょう。当選するために何票必要かくらいは、しっかりと計算して、当選ラインまで票を積み上げていかなければなりません。

選管には選挙権のある人の名前が全て書かれた選

たり、選挙事務所（自宅でも可）を決めたり、普段あまり馴染みのないことがあります。必要な手続きに関しては選管から説明がありますが、選挙の経験がある人が身近にいない場合は、選管の説明をよく聴いて、できることは早めに準備しましょう。何より一緒に選挙を手伝ってくれる人（家族でも可）を探しておくことが大事です。

挙人名簿というものがあり、閲覧することができません。票をカウントする時や選挙はがきを出す時などには必ず必要になります。ただし、この名簿はコピーしたり写真を撮ったり持ち出ししたりすることができないので、必要な部分を書き写すなど手間がかかります。さらには告示日から選挙後5日間は閲覧できないことになっているので、必要な方は早めの閲覧をお勧めします。

当選ラインは、たとえば選挙人名簿に載っている人が1800人だと仮定すると、過去の例から投票率は80〜90%くらいになるでしょうから、当選が確実なラインは140票から160票あたりになると想像できます。もちろんこの当選ラインは、立候補した人の人数や大量得票した人がいる場合などで、微妙に下がることもあります。（これは参考数値で当選を保証するものではありません）

ちなみに前回選挙では、定数10に対して13人が立候補し、最高得票は329票、最下位当選の得票は127票でした。

最後のお願

前回選挙は激しい選挙戦となりましたが、それ以前については長いこと無投票の選挙が続きました。選挙となれば当選ラインの票を確実に集めるのは正直いって容易なことではありません。

今度の選挙がどんな選挙になるのか全く予測できませんが、分かっていることは、明日の村づくりに議会の役割はなくてはならないもので、その役割がしっかりと果たせる議員が選ばなければならないということです。

そのためには、様々な職種の方、様々な年代の方、様々な考えや経験をお持ちの方など、できるだけ多くの人に手を挙げてもらい、真に木祖村の将来に必要な人材を皆さんに選んでもらう選挙となってほしいということです。

国では地方議員のなり手不足の現状をなんとかしようと調査研究をしています。地域の実情に合った選挙ができるよう法律が見直されれば、その地域に真に必要な議会が形成されるような気がしますが、国の対応はもう少し先になりそうです。

そこで最後のお願です。明日の木祖村のために、村会議員に立候補してもらえませんか。

元気発見! びらびと大図鑑

新春街角インタビュー

「新しい年を迎えて、一言!!」

安原 文祥さん・瞳さん

役場職員とは違う形で木祖村に貢献したく、カフェ&缶づめバル「WAKU↑WAKU」を始めました。会議・パーティー等多目的な利用を含め、誰もが気軽に集まれる場所となるよう70種類の缶づめを用意し皆さんのお越しをお待ちしています。



田下 剛さん

木曾町日義に「阿羅屋」を開店させ2年目になりました。ソバはもちろん、とんかつ定食も好評です。皆さんのご来店をお待ちしています。

田中 寛幸さん

今年は弁天様の周りをみんなの力を借りて綺麗にしたい。木祖村観光協会では縁結神社の担当をしているので、沢山の人に来てもらって良いご縁が沢山できるようにがんばります。



市川 凌大さん

昨年の県中学校陸上競技大会100m走決勝は11秒21のタイムで4位でしたが、設定タイムに1秒足りず全国大会を逃し悔しい思いをしました。新たなステージでインターハイ出場を目標に、今まで支えてくれた家族のためにも頑張ります。

藤井 純子さん

私は大阪府堺市出身、昨年まで京都で生活をしていましたが結婚し木祖村にやってきました。今までイタリア料理のシェフとソムリエの仕事をしていたので、将来高原野菜やジビエ・地元の食材を使ったお仕事ができたら良いなと思っています。



宮川 美代子さん

年が明けて運気が上がってきている感じがします。自分らしさを大切にして、新しいことにもチャレンジしたい。できれば、ものづくりのようなことしてみたいと思っています。

古畑 雄介さん・恵理さん

たくさんの方に協力していただき、昨年5月に「LEGO」をオープンすることができました。いま木祖村に出店して本当によかったと思っています。今度は私たちが恩返しする番。若いチカラで木祖村を盛り上げていきたいです。



編集後記

31年間続いた平成の時代が終わろうとしています。この間、国内ではバブル崩壊、政権交代、阪神淡路大震災、東日本大震災など様々な出来事がありました。当村は味噌川ダムの完成、自立への選択等を経てきましたが、大きな災害もなく平穏な時代であったと思います。

さて、次はどんな元号となるのでしょうか。節目の年となる今年の干支は亥です。猪突猛進、周囲の人のことや状況を考えず、一つのことに猛烈な勢いで突き進もうとする国政に対し、国民皆が同じ方向を向いて歩いていける新たな時代となることを願わずにいられません。

木祖村議会報編集委員会 委員長 岩原大輔 委員 唐澤重明 青木 功 栗屋正一